

コウリュウを用いた天蚕の野外放飼育

コウリュウ（蒿柳）は天蚕の飼養樹として知られ、一般的な飼養樹であるクヌギと比較して耐寒性、生育速度に優れるため、安定した天蚕繭生産が可能である。また、枝条が直立性のため密植が可能であり、飼養樹の生育期間が短い本県のような気象条件でも、収繭量を増加させることができる。

表1 コウリュウとクヌギの枝条伸長比較

飼養樹	1995年		1996年	
	7/18	7/18	9/19(再発枝)	
クヌギ	122cm	135cm	84cm	
コウリュウ	238cm	221cm	139cm	

注)枝条を基部30cm残で収穫した最長枝条長



コウリュウはクヌギと比較して発芽が早く、枝条伸長もかなり旺盛である。また、飼育後の再発枝の生育も良好である。枝条数についても飼育前はクヌギと同等（25本前後）であるが、飼育、剪定後の再発枝数はクヌギの2倍（30本前後）と再発芽能力に優れている。

枝条が直立性のため、クヌギの2倍の密度で栽植が可能であり、10a当り葉量に換算するとクヌギの葉量を大きく上回るため、天蚕繭を多量に生産できる。再発枝条の葉量も多く、放飼育によるダメージが翌年に残りにくいので樹勢の維持が容易である。

表2 コウリュウとクヌギの葉量比較

飼養樹	1995年		1996年	
	7/18	7/18	9/19(再発枝)	
クヌギ	1株当たり	1,221g	655g	176g
	10a当たり	814kg	434kg	117kg
コウリュウ	1株当たり	947g	850g	327g
	10a当たり	1,263kg	1,135kg	436kg

注)10a当たり株数はクヌギ663株，コウリュウ1,333株

表3 コウリュウとクヌギの天蚕飼育成績比較

飼養樹		1株当たり頭数	繭重	繭層歩合
1~3齢	4~5齢	(4~5齢)	(g)	(%)
クヌギ	クヌギ	5	10.46	9.34
		10	8.47	9.89
	コウリュウ	5	9.52	8.45
		10	8.57	8.97
コウリュウ	クヌギ	5	9.93	9.27
	コウリュウ	5	9.02	8.86
		10	8.33	8.67

繭がやや小さくなる傾向にあるが、コウリュウは低温の影響を受けにくく、安定して天蚕を飼育できる。天蚕卵の出庫を6月中旬頃にすれば、コウリュウ1株当たり10頭くらいで十分に放飼育が可能であり、営繭のための残葉も十分に確保できる。